

# 蓬萊町だより

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

日会部 町文化 号10 号7 号5 号6  
蓬萊文 成行集 15年 第15者者  
編集者者 平発編

## 私説 資長太田道灌の生涯 (その二)

日本随筆家協会々員 上野 静

道灌は江戸城に舞い戻ると泰然自若として家の子、郎党を囲み、得意の和歌、発句を朗詠し、文芸論議を楽しんでいた。

時には豊島都高田の行きつけの狩場に鹿狩りに出かけてストレスの解消に努めていた。某日のことだった。鹿狩りを終えると俄かに土砂降りの豪雨となった。

道灌は側近の家臣、樋口兼信と中村重頼の二人を連れていた。雨宿りの夕メに二人は駆け回って一軒の農家を見つけたのである。国主は応仁の乱の落武者ということだった。国柄という珍しい姓だった。妻は失ったが二人の美しい少女がいた。国柄は伊豆土着の先住民だった。西方からきた民族に滅された国柄を問謀として使っていた伊勢新九郎(後に北條早雲と改名した)は「お前は滅された民族の片割れだ。国柄ではなく人間のクズだ。俺は今後、お前をクズと呼ぶから承知してくれ」と言って軽蔑した。「そう呼べばお前は口惜し

いだろう。その口惜しさで先住民として追われた先祖達の仇を取ってやるという意気込みが出て男が変わるぞ」と励ますような嘲るような言葉を打ちつけた。

国柄は心の中で憎い奴だと思つたが一つの発奮剤として心の中に確争と受け止めた。土砂降りの雨の中、一軒の農家を見つけた家臣の樋口は早速、道灌に告げた。道灌と家臣の三人はズブ濡れになって入り込み「俄雨で困った。雨具があつたら貸してほしい」と頼み込んだ。主の国柄は三人をシゲシゲと見てこれは尋常の武士ではない。立派な武將に違いないと直感した。そこで国柄は奥へ入り、二人の娘にそれぞれ山吹の花を持たせ道灌の前に進み出て膝を折り、山吹の花を道灌に捧げるように差し出させた。

道灌と家臣は首をかしげた。歌人でもある武將の道灌はこれは後拾遺集にある兼明親王の歌「七重八重、花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」の一首であることに思い当たった。家族三名は「私どもは貧困な農家で葦一つございませぬ。山吹は咲いても実を結ばないのと同様に大変残念ですが雨具がございませぬ」と言うのだった。

道灌は「よく言ってくれた。解つた。気にしないでくれ……私は江戸城の主、太田道灌だ」と名乗った。国柄は恐縮して「大変、無礼なことをしました」と謝った。

道灌は二人の美少女を見て名前を聞いた。姉妹は顔を見合わせて笑いながら、紅皿と欠皿と言いますがこれは近所の人達が名付けた愛称です。本当は七重、八重と申します。道灌は大いに気に入らしく高笑いして上機嫌だった。

国柄は博学多識のようでもよく知っていた。特に諸国の国勢、内情に通じているのに驚いた。道灌はこの武士国柄から今後、戦略上重要な情報を得たいと思つた。

道灌はその夕メに鹿狩りと称して屢々やってきた。その上、美しい上の姉、紅皿が好みのタイプの方だった。

家臣の樋口、中村は「親方は姉の紅皿に気があるようですな」と言ってみた。道灌は「大いにある」と言つた。それでは「江戸城にお呼びなつては……」と告げると道灌は「矢張り、野に置け紫雲英で山吹の花も野に置いてこそ美しい風情があるものだ」と上機嫌で渋笑した。

その後、道灌は某日、ブラリと高田の国柄の家に行ってきた。二人の姉妹に手土産を手渡した。包みを解くと中から金糸、銀糸でコーデイネートした美しい上布だった。

姉妹は顔を見合わせて喜んだ。「父は何処へ行ったのか」と道灌は尋ねた。「浅草に用事があつて行きました」と答えると問もなく帰ってきた。道灌は「伊勢 新九郎」という男を知

らないか」と尋ねた。国柄が伊勢新九郎のスパイだということを知つての上の質問だった。「ハイ、新九郎は今、伊豆方面に據点を置いて天下の大勢を睨んでいるようです」と答えた。そう答える一方で国柄は道灌の状況を新九郎に伝えていた。国柄は両方のスパイだったのである。国柄は俺の体の中に今一人の国柄がいると考え、我ながら奇妙な気持ちになった。双方が国柄をスパイに使つてゐるわけだ。間謀すばいとはそういうものなのだろうかと言つた。この頃になると時代はも早、道灌を武人大名に担ぎ上げていたのだつた。

しかし、彼の名声が上がる度に主君、扇谷上杉定正のネームバリューは下がる一方だつた。ところが関係住民大衆の人氣が道灌一筋に沸騰すると各地の豪族は反道灌一色に集約、道灌の孤立化を進めて行つた。

道灌は国家運営の権力者達は身分の高低で決定することは知つていた。

道灌はその点、単なる將軍職に侍べる倍臣に過ぎなかつたのである。(倍臣は執事のこと) この頃になると道灌は紛争などの問題解決の發言権は全くなかつた。

將軍足利義尚は「関東の逆徒(道灌)を討伐せよ」の大号令を両上杉や足利成氏公方などに命じたのである。

道灌はこれを聞いてハラハラと落涙し、述懐した。

「俺はこの十年間、何の為に戦つてきたのか。敵、味方とも多数の武士や無辜の民衆が血を流し、死んで行つた。

それが総べて徒労だつたのか。関東大争乱を巻き起こし、アレだけトラブツて騒がせた長尾景春や背後の足利成氏は今では官軍の大將だ。道灌は「俺が一介の関東の武將に過ぎぬことは承知の上。併し、持てる力のキャパシティを出し切つて関東の争乱を鎮圧したのだ。どうして俺が逆徒だというのだ。こんな陰湿な環境の中で道灌はかねて屢々訪れた高田の里へ出向いたのである。

国柄のいる家だ。そして紅皿、欠皿の二人のかわいい姉妹のいる家だ。

初めて知つた頃の娘達はホンの少女だつたが今は立派に成人し、美しい娘になつていた。しかし、道灌は二人の娘達を可愛がつたが一度として不倫に及ぶことはなかつた。

彼女達も明るい少女で道灌を人格者として尊敬していた。高田の里は道灌自身の憩み処として別宅のようにしていた。ここに来ると道灌は自然と暗い心が和み、医療いりやうのぼとなつていた。ここで、道灌は休み休み、天下の新しい戦略や領土の治安のノウハウを考究していた。その具現の数々は凡そ次のようだつた。

江戸港を整備、別藩だつたが品川港が各種の貿易で賑わいを見せたことをターゲット

にし、多額の資金を投入、流通経済機構を導入、関税も削減、各種物産の交易を盛んにしたのである。その上、浅草橋も拡大、遠く朝鮮から佛像を輸入、航海の安全を守る佛像として関係者多数が参詣、蝟集した。海辺広場には建場を設置、物産市を設けて地場産業の発展に貢献、これに依り、米麦その他の穀物類、野菜、果物、お茶、鉄鋼、金銀財宝その他、人間生活の必需品など続々と集まり、江戸の繁栄は益々広がり、空前の段賑を極わめ、展開した。

しかも、供給先は「近くは房州、茨城、常陸遠くは近江、泉州堺、信州辺りから海・山越えて搬入したのである。

かくて道灌は日本全国に経済、政治の達人として名声を博し、大江戸の人氣を一身に集めた。しかし、この為には道灌は物産市で巨萬の富を得たという誤解を受けるようになった。特に道灌の主君、扇谷定正や彼を警戒していた群雄達から卑劣な疑惑を受け、この際徹底的に鉄誅を下すべきだと鋭い口撃を受けたのである。

併し、道灌は「心から疚やましい所はない」と泰然としていた。(次号へつづく)

# 町会活動の概要

平成十五年一月から  
平成十五年六月まで

## 総務部

15年 1/11 根津神社

御遷座三百年記念事業委員会

1/16 文町連新年会(区民センター)

1/22 文京区意見交換会

(シビックセンター)

1/28 向丘地区町会連合会新年会

2/3 根津神社豆撒き

3/31 部長会(決算報告)

4/7 駒本小学校入学式

4/27 根津神社つじ祭り甘酒茶屋当番

5/3 会計監査

5/6 部長会

6/3 総会・懇親会

## 婦人部

14年

12/1 歳末地域福祉助け合い募金活動

二七七件 二〇三、六一二円

ご協力有難うございました。

本郷清掃事業協力会

(年末年始のゴミ処理について)

12/4 文京つじ会

12/13 定例会・懇親会

2/25 本郷小石川清掃事務所統合に

ついて

2/27 文京つじ会 15年度当番日程について

3/6 日赤奉仕活動

4/27 根津神社つじ祭り甘酒茶屋

当番20名参加

5/1 赤十字会員寄付金

一九七、〇〇〇円

ご協力有難うございました。

駒込母の会 春の交通安全

## 交通部

15年 1/28

駒込交通安全協力

創立50周年記念式典

4/23 駒込交通安全協力 理事会

5/12 春の交通安全運動

街頭活動11日、20日

5/21 駒込安全協力 総会

11/30 部反省会

15年 5/25

避難所運営訓練

(文京区本郷消防署、駒込警察署) 一四名参加

## 防犯部

14年

12/23 歳末夜警開始 29日

15年

1/14 駒込防犯協会 新年会

2/14 駒込防犯協会 会議

5/23 防犯協会 総会

14年

12/15 第11回ケーキ作り

駒本小学校36名、誠之小学校43名 参加

15年 2/3

地区対 新年会

## 文化部

15年

1/13 成人の日 お祝品 対象者8名

2/10 蓬萊町だより第六四号発行配布

3/30 お汁粉会(海蔵寺前)

役員・婦人部・有志

4/1 新入学児童 お祝品対象者四名

◎平成十五年度成人者氏名

今井 達郎 向丘2-37-7

戸田 大晴 向丘2-38-3

山澤 信也 向丘2-17-20

小林 貴彦 向丘2-18-7

加藤稲太郎 向丘2-30-104

松本 まき 向丘2-35-5

島田 絵加 向丘2-38-22

桑田 奈奈 向丘2-38-24

◎平成十五年度新入学児童

小幡 朋生 向丘2-16-6

中村 優介 向丘2-17-1

加藤 拓美 向丘2-26-9

青樹 弥緒 向丘2-28-9

## 計報

井口スナヲ 様(九一才) 向丘2-30-7

富永 光子 様(八四才) 向丘2-16-9

伊地知ツネ 様(七七才) 向丘2-30-7

露久保恵三 様(七七才) 向丘2-24-8

清水 康政 様(九七才) 向丘2-18-14

高岡 功 様(七七才) 向丘2-19-20

島田 たか 様(八九才) 向丘2-36-24

**蓬 萊 町 会**  
**平成 14 年度収支決算報告書**  
 決算期間、平成 14 年 4 月 1 日～至平成 15 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	957,020		総務部 渉外費	294,500	渉外費・慶弔費
町会会費	1,412,000	会員数 351名	担 当 会議費	250,330	総会・定例会・部長会
区助成金等	607,008	区助成金 188,228	備品費他	284,765	通信連絡費・事務費
		リサイクル 267,280	防火防災部費	93,953	友の会助成・消耗品 他
		区報配布 151,500	防 犯 部 費	80,139	
預金利息	960		文 化 部 費	517,668	
雑収入	62,129		婦 人 部 費	398,455	
			青 年 部 費	30,000	
			交 通 部 費	92,565	
			衛 生 部 費	0	
			積 立 金	535,033	積立金 535,033
			繰越金	461,709	次期へ繰越 461,709
合 計	3,039,117	今期実収入の合計 2,082,097	合 計	3,039,117	今期経費合計 2,042,375 実今期余剰金 39,722

積立金等残 ¥5,500,000

平成 15 年 6 月 3 日

平成 14 年度決算を上記の通り報告いたします。

町会長 三宅英三 ㊟

会計 三竹中 ㊟

平成 14 年度決算は監査の結果正確に処理されていることを証します。

監査 川村康明 ㊟

**平成 15 年度収支予算計画書 (案)**

決算期間、平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	461,709		総務部 渉外費・慶弔費	300,000	総務部担当計 800,000
町会会費	1,400,000		会 議 費	250,000	
区助成金	600,000		担 当 事務連絡費	120,000	
			補 助 金	130,000	
			防火防災部費	100,000	
			防 犯 部 費	100,000	
			文 化 部 費	300,000	
			婦 人 部 費	400,000	
			交 通 部 費	100,000	
			青 年 部 費	80,000	
			衛 生 部 費	10,000	
			予 備 費	571,709	
合 計	2,461,709		合 計	2,461,709	

平成 15 年 6 月 3 日

平成 15 年度予算(案)を上記の通り計上いたします。

町会長 三宅英三 ㊟

会計 三竹中 ㊟

蓬萊町会・役職人事 (敬称略)

会長 三宅 英三  
 副会長 橋本 明昭  
 総務 加藤 靱美  
 会計 橋本 明昭  
 監事 竹中 俊之  
 川村 康明  
 小川 義信  
 相談役 川村 康明  
 五十嵐日出男

連絡委員  
 南部 堀江 頼治  
 中部 藺田 貴恵子  
 北部 五十嵐日出男  
 関根昌一 (川瀬芳孝)  
 川村康明  
 中島行雄

部長  
 交通部 本城 康至  
 防火部 大畑 清心  
 防犯部 坂本 禎一  
 文化部 青木 喜一  
 池田 暉 (蓬萊町たより編集委員)  
 衛生部 五十嵐日出男  
 婦人部 藍原紀久子  
 青年部 三宅 秀明  
 室川幸子  
 加藤美次  
 藤関芳江  
 中島 行雄  
 小林 一雄  
 堀江 頼治  
 竹中 俊之

編集後記

中東の争いに解決の目処の立たぬまま、SARS という魔物が現れて世界を混乱しています。先日、或る記事で地球が物理的にも縮みつつあると或る化学者が云っております。世界中の人物が皆、浮き足立っている様です。こんな時こそ、遠い親戚より近くの他人と云う言葉を噛みしめるべきかも知れません。盛夏を目前に皆様の「自愛を祈ります。

編集委員 三宅栄三 竹中俊之 常岡 裕  
 青木喜一 池田 暉